

オモキ造りの構造とその技術

— 富山県氷見地域のドブネを中心に —

■ 講師: 廣瀬 直樹

2021年2月28日(日) 14:00~16:00

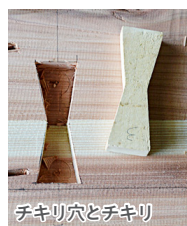
Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30) 参加費無料



ドブネ縮小模型 S=1/10 番匠光昭製作 氷見市立博物館蔵



ドブネによる網取り作業 昭和30年代頃 氷見市灘浦「島の大敷」

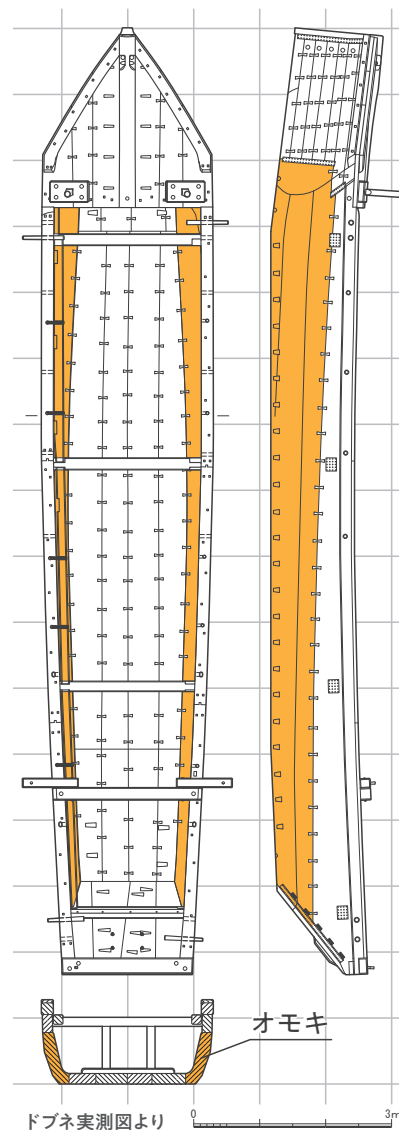


チキリ穴とチキリ

かつて日本海沿岸地域に色濃く分布していた造船技術がオモキ造りである。オモキ造りとは、船底板の左右両端に刳材オモキを組み込んだ構造をいい、ウルシによる接着や木製接合具であるチキリとタタラの使用など、特徴的な接合技術が付随する。今回の報告では、近年まで活躍したオモキ造りの漁船のうち、最大級の船体を持つ富山県氷見地域のドブネを一例として、オモキ造りの船体構造の特徴とその造船技術について検討を加える。

■ 廣瀬 直樹 (ひろせ なおき) 日本海事史学会会員

1977年富山県生まれ。専門は考古学・民具学。平成13年度より氷見市立博物館の学芸員を務める。平成15年、氷見市内の船大工とともに和船建造技術を後世に伝える会を結成し、調査・研究を行う。平成23年、「富山の和船～富山湾沿岸地域とその周辺に海船・川舟～」で第25回日本民具学会研究奨励賞を受賞。現在、氷見市立博物館主査(学芸員)。



ドブネ実測図より

オモキ

- 会員は申込不要。ご案内をメールでお送りします。
メールアドレス未登録の方は、右の申込先までご連絡ください。
- 非会員の方は、メールでお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には2月25日(木)までにご連絡いたします。

■ 申込〆切: 2021年2月24日(水) 正午(12:00)

■ 申込先: ofune@babit.info 大野康世

メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み(会員)」または「日本海事史学会 Web 例会申し込み(非会員)」として本文にはお名前をお書きください。

[今後の開催予定日: 3月20日(土祝)・4月24日(土)・5月22日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文科学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々との交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

